

(様式2)

令和4年度佐賀大学研究者国際交流支援事業報告書

令和5年3月7日

国際交流推進センター長 殿

事業責任者(申請者)

所 属 医学部看護学科

職 名 教授

氏 名 藤野 成美

下記のとおり令和4年度佐賀大学研究者国際交流支援事業の実施結果について報告します。

1.国際研究集会名	医療職の well-being 向上を目指した国際多職種交流集会		
2.事業責任者 (申請者)	藤野成美	3.所属・職名	医学部看護学科・教授
4.開催期間	令和 5年 3月 2日		
5.申請区分	A) 学術交流協定(大学名) B) 共同研究 ③) 一般		
6.参加者数 ※参加者名簿(別添) を添付	参加者数 <u>45</u> 名 内、 <u>外国人</u> 数 2 名、 <u>研究者</u> 数 29 名、 <u>学部学生</u> 数 1 名、 <u>修士以上学生</u> 数 13 名		
7.招待講師	所 属 <u>NHS Lothian</u> 職 名 <u>医師</u> 氏 名 <u>有馬 由里子氏</u> 所 属 <u>NHS Lothian</u> 職 名 <u>Breast Care Nurse</u> 氏 名 <u>Karen Johnstone</u> 所 属 <u>福岡大学医学部看護学科</u> 職 名 <u>助教</u> 氏 名 <u>池田 智氏</u>		
8.支出額	金 額 <u>160,000</u> 円 【内訳】 <u>謝金</u> <u>128,000</u> 円		

	同時通訳料 40,000円 事前打ち合わせ会議謝金 28,000円 コーディネート料・同時通訳（英国人講演者）謝金 10,000円 講演謝金 30,000円 大学院生謝金（資料作成、連絡調整）20,000円 旅費 0 円 消耗品費 32,000 円
--	---

9.国際研究集会の内容

本セミナーにおいて、ダイバーシティの先進国である英国の医療現場の実情を踏まえ、①英国および日本の医療現場で活躍されている講師を招き、well-being 向上を目指した職場環境の取り組みについて、②医療現場におけるさまざまな個人特性について、③ロンドン医療センターとの共同研究：セルフメンタルケアのためのモバイルアプリケーション「Feeling Good App」日本語版開発の効果検証における成果発表について国際交流集会を開催した。

10.事業実施による成果・今後の事業の発展等

Well-being とは、個人の権利や自己実現が保障され、身体的、精神的、社会的に良好であることを意味する概念である（厚労省, 2021）。医療職一人ひとりが豊かで心身ともに健康的な職業人生を目指すことによって、モチベーションアップ、人間関係の改善、帰属意識の向上につながり、医療組織にとってプラスに働くことが明らかになっている。これは医療を受ける患者にとっても、医療の質向上といった観点から利益がある。

本事業実施による成果・今後の事業の発展等については、セミナー終了後、Forms を用いてアンケート調査を実施した。その結果、講演に関しては参加者全員が満足と回答した。本事業実施による成果として、自由記載を一部紹介すると、「イギリスの現状を知る機会になり、日本での看護職のメンタルヘルスの課題も見えてきました。」「自分と周りを大事にして、より良い環境とメンタルの中で仕事が行え、最善の看護が提供できるよう改めて考える時間となった。」「個人特性のある同僚、学生への指導の参考にしたいと思います。モバイルアプリケーションの開発研究については、研究プロセスなど、勉強になりました。」

「職場環境における Well-being 向上には、現場で働いている人々の情報をしっかりと共有したうえで、PDCA をしっかりまわすことが必要だと、改めて理解しました。」という内容であった。

また、今後のセミナーの要望として、「看護職のメンタルヘルスに向けて、共同研究していく足掛かりになるようなセミナーがあると嬉しいです。」という意見があった。継続課題として検討する予定である。このようなセミナーの機会をいただき誠にありがとうございました。

※欄内に収まらない場合、適宜、行を追加し、ページを増やしていただいても構いません。